從日語語料庫看日本的夫/妻形象
─以「形容詞+夫」「形容詞+妻」形式為主─

賴錦雀

東吳大學日本語文學系教授

摘要

日本社會「男主外、女主內」的想法很普遍。雖然 1985 年即制定了「男女雇用機会均等法」，並且自 1986 年起開始實施。不過，蔑視女性的發言時有所聞，還有首相將女性比喻為生產機械；同時，女性結婚之後想要持續就業也很困難。另一方面，也有「Teisyu-kanpaku 亭主関白」「Kakaatenka かかあ天下」的語詞。本論文之主旨乃是從日本語學研究的觀點，以日語語料庫之「形容詞（イ）+夫」形式和「形容詞（イ）+妻」形式為例，分析日語的丈夫形象與妻子形象。

關鍵詞:日語、形容詞、語言與性別、丈夫形象、妻子形象

台灣日語教育學報第39號 禁止複製

受理日期:2019 年 08 月 30 日

通過日期:2019 年 11 月 15 日

Japanese Husband and Wife Images seen from Corpora: In the Form of "Adjective + otto" and "Adjective + tsuma"

Lai, Jiin-Chiueh
Professor, Department of Japanese Language and Culture,
Soochow University

Abstract

The idea of "male outside , female inside" in Japanese society is very common. Although the Law on Equal Employment Opportunities for Men and Women was enacted in 1985, it has been implemented since 1986. However, the contempt of women's speeches has been heard, and the Prime Minister has compared women to production machinery. At the same time, it is difficult for women to continue to work after they have children. On the other hand, there are also words such as "Teisyu-kanpaku " and "Kakaa-tenka ". The main purpose of this paper is to analyze the image of the husband and wife of Japanese in the form of "adjective (イ) + husband" and "adjective (イ) + wife" from the perspective of Japanese linguistic research.

Keywords: Japanese, adjectives, language and gender, husband image, wife image

台灣日語教育學報第39號 禁止複製

日本語コーパスから見る日本の夫像と妻像
―「～い+夫」と「～い+妻」形式を中心に―

賴錦雀
東呉大学日本語文学系教授

要旨

日本では「夫は外、妻は内」という思考様式がある。1985 年に男女雇用機会均等法が成立し、1986 年から実施されていても、女性を生む機械とした首相の発言も聞かれ、結婚した女性、特に子持ちの女性の就職継続が難しいのも事実である。一方、「亭主関白」「かかあ天下」という言葉もある。一体、日本語における夫像、妻像はどういうものなのか、日本語学研究の観点から、コーパスにおける「形容詞（い）+夫」形式と「形容詞（い）+妻」形式を考察·分析し、それを明らかにするのが本稿の目的である。

キーワード：日本語、形容詞、言語とジェンダー、夫像、妻像

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

日本語コーパスから見る日本の夫像と妻像
―「～い+夫」と「～い+妻」形式を中心に―

賴錦雀
東呉大学日本語文学系教授

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

1.はじめに

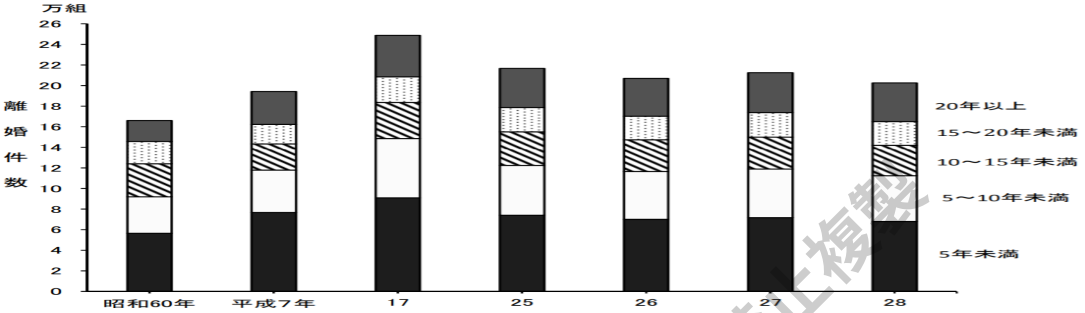
2019 年 4 月 30 日に日本の明仁天皇が退位し、5 月 1 日から皇太子徳仁親王が新天皇に即位して、元号は令和になった。1817 年の光格天皇以来、202 年ぶりの天皇の譲位であるため、世界中から注目されたが、皇太子妃時代に長らく病気療養をされていた皇后雅子さまのことも関心を集めている。1999 年に流産の手術を受けた雅子さまには、2001 年に待望の第 1 子誕生後もお世継ぎを巡る重圧は依然としてかかり続けた。その後、雅子さまは適応障害と診断され、長期療養生活になった。2004 年 5 月、皇太子さまが訪欧前の記者会見で、「雅子のキャリアや人格を否定するような動きがあったことも事実です。」と発言したほど、皇太子の妻としての雅子さまの皇室生活への適応は大変だと察せられる[1]。日本人の妻は本当に柳沢伯夫厚生労働相が 2007 年 1 月 27 日に発言したように、子供を産む機械・装置だけのようにされているのだろうか。

皇太子妃をカバーした皇太子徳仁親王は愛妻家のイメージが強かった。しかし一方、「俺より先に寝てはいけない/俺より後に起きてはいけない/めしは上手く作れ/いつもきれいでいろ」という、歌手さだまさし「関白宣言」の歌詞のような「亭主関白」は日本人夫への一般的な印象であろう。そして、1986 年の大日本除虫菊（キンチョー）の商品「タンスにゴン」のＣＭのことばに「亭主元気で留守がいい」というのがあった。当時の日本においては、夫は妻に厄介者扱いされたようである。生活費だけはちゃんと持って帰ってきて

[1] 日本経済新聞 2018 年 6 月 8 日付き「皇太子ご夫妻、結婚 25 周年　写真で振り返る歩み」を参照。

ほしいが、家の中で世話を焼かせないでもらいたい、という妻の声だった[2]。それは平成年間の熟年離婚がずっと 3 万組以上あった原因であるかもしれない（図 1 を参照されたい）。しかし、それに対して、「妻が怖い」という夫が増えているし、「妻からの精神的虐待」という動機で夫側から申し立てた離婚が注目されている[3]。

（図 1）日本における同居期間別離婚件数の年次推移
（1985～2016 年）



（厚生労働省（2017）「平成 28 年人口動態統計月報年計（概数）の概況」による）

いったい日本語における夫像、妻像はどういうものなのか、本稿では日本語学研究の立場から、多量のデータがまとめられたコーパスにおける「夫」と「妻」と形容詞との共起表現からそれを明らかにしたい。考察手順としてはまず、辞書における「夫」と「妻」、「夫」「妻」の呼び名、価値観から見る「夫」と「妻」など、「夫」と「妻」に関する論述を見た後、コーパスから「夫」及び「妻」と共起する形容詞を抽出し、分析して日本語における夫像、妻像について考えてみたいものである。

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

2. 先行研究

「言語とジェンダー」については、ロビン・レイコフ（Robin Lakoff）が 1973 年に言語と女性に関する問題をはじめて提起して以来、言

[2] 中丸（2018）（https://www.zakzak.co.jp/soc/news/181219/soc1812190001-n1.html）による。ちなみに、1994 年に家族における父親の悲哀を歌った「関白失脚」が発表された。
[3] 黒川（2018：3）によると、「妻からの精神的虐待」という動機で夫側から申し立てた離婚では、2000 年度の 6 位から急上昇して 2017 年度は 2 位になった。

語学、心理学等における大きなテーマの一つとなってきた[4]が、日本における言語とジェンダーについての研究の歴史はそれほど長くないと思われる。寿岳章子『日本語と女』(1979 年。中公新書）は現代的な視点から日本語と女性を論じた研究である[5]。1980 年代に入ると、欧米の影響を受けて、性差の観点から日本語における女ことば、女性を表現することばについての研究が増えた。例えば、井出祥子『女のことば、男のことば』（1979。日本経済通信社）、ことばと女を考える会『国語辞典のなかの女性差別』（1985。三一書房）、中村桃子『ことばとフェミニズム』（1995）勁草書房、日本語ジェンダー学会編『日本語ジェンダー』（2006。ヒツジ書房）など。本節では日本語における「夫」と「妻」についての論述を取り上げて考える。

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

2.1 辞書における「夫」と「妻」

日本の神前結婚における祝詞の中に「妹背の契り」という言葉がある。「妹」は男性から見た結婚相手の女性、「背」は妻から見た結婚相手の男性を指す言葉である。現代語では「夫」と「妻」というが、「夫（おっと)」は古形が「ヲヒト」であり、「ヲ＋ヒト」が語源である。「ヲヒト」の「ヒ」が促音化して「ヲット」となり、現代日本語では「おっと」と表記する[6]。『明鏡国語辞典』では「おっと【夫＜良人＞】結婚した男女のうち、男性のほう。（中略）＊特にへりくだって言う場合以外は、「夫」「主人」「宅（たく)」「亭主」などという。」と説明されている。『デジタル大辞典』では《「おひと（男人)」の音変化》配偶者である男性。結婚している男女の、女性を「妻」というのに対して、男性をいう語。亭主。」と記述されている。

「妻」の語源はいろいろあるが、草川（2003：180）によれば、「ツは粘り気ある意の語根、マはミ（身）の転で、連れ添う夫婦の義」（国語の語根とその分類)、「ツレミ（連見）の略転」(『大言海』)、

[4] 宇佐美（2005:1）による。
[5] 宇佐美（2005：5）による。
[6] 草川（2003：42)『語源辞典』「おっと」項による。

「ツはツラ（連）の語幹、ミはミ（身）の転」（日本古語大辞典）の三説は共通していて妥当な説といえる。『明鏡国語辞典』は、「妻」について「結婚した男女のうち、女性のほう」という解釈とともに、「古くは「つま」に「夫」の字をあて、配偶者の男女どちらをもさした」という説明も見られる。刺身などのあしらいに添える野菜・海藻などのことも「妻」ということから考えてみれば、現代日本語において配偶者としての女性はただの「取り合わせもの」だと思ったのは筆者の考えすぎなのだろうか。

2.2「夫」「妻」の呼び名

（1）夫　おい、さやか。何してるんだ、もう 12 時過ぎだよ。風呂に入ってるのか？

（「深夜のまつり」石川蛍、1998.10.17 放送、西鉄）

（2）煎餅をかじる音/ボリボリ…

登　おい…。

煎餅をかじる音/ボリボリ…

登　おいったら・・・玲子。

玲子　…んー？

登　いいかげんに止めたらどうだ

（「痩せない女」吉田尚子、2000.09.16 放送、西鉄）

（3）玲子　登？お帰りぃー。

登　おい、ここに座れよ。

玲子　え？今、お夕食の支度してるんだよ。

登　いいから。

玲子　うん。

玲子　何？

登　これ。貰ってきたから。

紙（ハトロン紙のような薄い紙）を広げる音

玲子　何これ？

登　離婚届け。・・・おまえだってさ、俺に愛想つかしてんだろ？

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

（「痩せない女」吉田尚子、2000.09.16 放送、西鉄）

(4)あれ？鍵かけてないの？不用心だな。ドロボーだったらどーすんだ。おじゃましまーす。ええっと、子供部屋はどこだ？･･･あ、ここかな？

（部屋のドアを開ける音）

いやーん、アナター。

（「時代遅れのサンタクロース」中村聖子、1997.12.13 放送、西鉄）

(5)富田　ただいまぁ。

美紀　あ、おとうさん、お帰りなさい

富田　あぁ、美紀さん。いま年金を降ろしてきたんで、今月と来月の分の食費を。

（「楽園老」吉田尚子、2001.06.23 放送、西鉄）

上述の用例を見て分かるように、日本人の男性が妻を呼ぶ場合も女性が夫を呼ぶ場合もいろいろな呼び名が用いられる。管見では日本人の男性は妻のことを呼び捨て、「下の名前」、「下の名前+さん」、「下の名前+ちゃん」、「オカアさん」、「ママ」、「おい」、「ちょっと」と呼ぶ。第三者には多くの男性は自分の妻を「家内」、「ウチのワイフ」、「ウチの女房」、「ウチの妻」、「ウチのカアちゃん」、「うちのカミさん」などと呼んでいる。一方、女性は自分の夫のことを「あなた」と呼ぶのが多いが、「下の名前」、「下の名前+さん」、「下の名前+ちゃん」、「オトウさん」、「パパ」、呼び捨てなどもある。第三者に夫のことを「主人」、「ウチの亭主」、「ウチのパパ」、「ウチの旦那」「うちの人」などという。筆者の記憶では、20 世紀の末葉に読んだ産経新聞に掲載された詩人･上村多恵子のエッセイ「呼び名の力学」[7]では次のようなことが記されている。「さん付け」の呼び名の夫婦平等ぶりは男性が威張っているよりは見やすいが､ややこそばゆい。この呼び方がいいのは喧嘩になりにくいことである。主従関係ではなく、イコールのパートナーシップと思いやりが生まれるらしい。

[7] 掲載時間不詳。

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

呼び名には関係の力学が表されるのである。

作家の川上未映子は『川上未映子のびんづめ日記』2で、「主人」という言葉を耳にすると、眉間に皺が寄り、体じゅうにかっと血がめぐり、のち死んだ魚の目になって脱力する、と述べている。なぜなら、その言葉は、対等なパートナーたる相手のことを無意識に「主人、主人」なんて言っていると、知らないうちに奴隷根性がすりこまれて、ここ一番というときに自立心が発揮できなくなり、「主従関係」がベースになっている恐れも多いからだという[8]。

確かに、「おい」「お前」と「主人」などの呼び名には違和感を覚える人が少なくないだろう。それは中国語の「喂」とか「賤內」「拙荊」という妻蔑視の呼び名と同じニュアンスだと思われる。

2.3 価値観から見る「夫」と「妻」

戦国時代の日本は男性より女性がファーストとされていた。江戸時代の武家社会は男性中心の家父長制ではあったが、庶民の暮らしの中では女性の発言権はかなりのものがあったという。男性が主になり、女性が従に変化したのは中国思想と教育制度の影響であった。中国の「男尊女卑」の思想は江戸時代から寺小屋を通じて徐々に日本人に植え付けられ、明治時代になって教育機関や出版物によって庶民にまで広まっていった。また、富国強兵政策が重視され、兵士になれる男性が社会の中心になった。なお、明治時代から昭和時代までの経済高度発展の期間に、男性は企業戦士として社会のために働き続き、夫を支えるのは妻の任務だと考えられていた。現代では世代差が大きく見られる[9]。

（表 1）日本における出産を巡る問題発言

時間	問題発言
2003 年 6 月 26 日	森喜朗前首相は、子供を一人も作らない女性が年を取って税金で面倒をみなさいというのは本当におかしい、といった。
2007 年 1 月 27 日	柳沢伯夫厚生労働相は、人口統計学では女性で出産する人数は分かる。生む機械、装置の数が決まっている、と発言した。

[8] https:// dual.nikkei. co. jp/article/098/15/による。2019 年 7 月 26 日閲覧）

[9] 詳しくは佐々木（2000：274-275）「男尊女卑」項、佐々木（2003：304-306）「レディーファースト」項を参照されたい。

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

2017 年 11 月 21 日	山東昭子参議員は、子供を 4 人以上生んだ女性を厚生労働省で表彰することを検討してはどうか、と発言した。
2019 年 2 月 3 日	麻生太郎財務相は、少子高齢化問題に関連し、子供を産まなかったほうが問題だ、と発言した。

（毎日新聞 2019 年 2 月 4 日による）

しかし、1985 年に男女雇用機会均等法が成立し、1986 年から実施されて以来、女性が結婚を機に退職しなければならない現象は少しずつ減少するようになり、女性だから賃金が男性より低いことも少なくなり、女性の社会参加も進み、発言力も持っている。例えば、2017 年の女性国会議員は 10.1%（47 人/465 人）である。しかし、出産を巡る問題発言の事例で見るように女性、特に人妻に対して古い考え方を持っている日本人はまだ少なくない[10]。

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

3.「夫」「妻」と共起する形容詞

日本語において一体、「夫」と「妻」はどのように描写されているのか、本節では、新潮文庫 100 冊、新潮文庫絶版 100 冊、毎日新聞（2003 年版）、国立国語研究所現代書き言葉均衡コーパスにおける「形容詞（い）+夫」、「形容詞（い）+妻」を対象に、日本語における「夫像」「妻像」を考察する。

3.1「夫」「妻」と共起する形容詞語例

本研究の考察では次のような「形容詞（い）+夫」と「形容詞（い）+妻」が観察された。

（表 2）「形容詞（い）+夫」と「形容詞（い）+妻」

	共起する形容詞
夫	足が悪い、新しい、妹に甘い、語気荒い、いい、品がいい、意識がない、忙しい、愛しい、疑い深い、口うるさい、おいしい、　帰りが遅い、おめでたい、思いやりがない、甲斐性がない、我慢強い、髪が太い、髪が多い、気が小さい、毛がない、恋しい、古希近い、心を見せない、言葉が少ない、子どもとの係わりも少ない、酒癖が悪い、寂しい、勤務成績が悪い、仕事のない、嫉妬深い、長期出張が多い、情が薄い、心臓の悪い、すごい、性格が良くない、センスない、逞しい、ダサい、頼もしい、罪がない、つれない、定年が近い、年の差が大きい、取りえがない、能がない、支払いの能力がない、再起の望みが薄い、惚い、恥ずかしくない、ひどい、まじめで

[10] 毎日新聞 2019 年 2 月 4 日付き「「またか」…政治家「出産」巡る発言　麻生氏「産まないほうが問題」」による。

	ない、珍しい、申し分がない、優しい、野心深い、安らぎがほしい、良い、若い、悪い
妻	愛情深い、愛らしい、新しい、いい、愛しい、疑わしい、美しい、煩い、浮気っぽい、お金が欲しい、幼い、温和しい、お肌が弱い、愚かしい、帰りが遅い、賢い、鰹出汁には詳しい、悲しい、可愛い、勘がいい、気が強い、気風が強い、気分が悪い、容貌（きりょう）がいい、口やかましい、経済力がない、元気がい、い、恋しい、言葉数が多い、仕事に疎い、自信がない、嫉妬深い、執着が深い、収入が少ない、情愛深い、植物に詳しい、鋭い、誠がない、育ちが良い、だらしない、冷たい、強い、寝息が荒い、妬ましい、ひどい、不甲斐ない、ふさわしい、ふさわしくない、旧い、物分かりがいい、優しい、よい、若い、悪い

3.2 考察と分析

3.2.1 意味類型

本研究で収集した日本語における「形容詞（い）+夫」と「形容詞（い）+妻」における形容詞を、国立国語研究所『分類語彙表』を参考に意味分類してみると、次のような結果になった。

（表 3）意味類型から見た「夫」と共起する形容詞

意味類型	「夫」と共起する形容詞（用例数）	評価	「夫」と共起する形容詞（用例数）	評価
人柄	おめでたい（1）	×	思いやりがない（1）	×
	甲斐性がない（1）	×	気が小さい（1）	×
	酒癖が悪い（1）	×	性格が良くない	×
	センスがない（1）	×	取り柄がない（1）	×
	まじめでない	×	ダサい（1）	×
	罪がない（1）	△	頼もしい（3）	○
力	すごい（7）	○	逞しい（1）	○
才能	能力がない（1）	×	能がない（1）	×
	恥ずかしくない（1）	○	惚い（1）	×
不思議	疑い深い（5）	×	—	
労働	忙しい（7）	△	仕事がない（1）	×
	勤務成績が悪い（1）	×	長期出張が多い（1）	×
	（帰りが）遅い（2）	×	野心深い（1）	×
	定年が近い（2）	△	安らぎがほしい（1）	△
経済力	支払い能力がない（1）	×	おいしい（1）	○
好悪	嫉妬深い(1)	×	—	
対人態度	妹に甘い（2）	×	—	
忍耐	我慢強い（1）	○	—	
良	品がいい（1）	○	品が良い（1）	○
	いい	○	良い（4）	○
不良	人が悪い（1）	×	悪い（2）	×
言語活動	口うるさい（1）	×	語気荒い（1）	×
	言葉が少ない(1)	△	—	
係わり	心を見せない	×	(子供との)係わりが少ない（1）	×
	つれない（1）	×	—	
待遇	ひどい（3）	×	—	
特徴	珍しい（1）	○	申し分がない（3）	○
悲哀	寂しい（1）	×	情けない（1）	×
愛憎	優しい（9）	○	愛しい（2）	○
	恋しい（2）	○	可愛い（1）	○
	情が薄い（1）	×	—	
新	新しい（11）	○	—	
健康	足が悪い（2）	×	意識がない（1）	×
	心臓が悪い（1）	×	—	
毛髪	髪が太い（2）	△	髪が多い（2）	△
	毛がない（1）	×	—	
年齢	古希近い（1）	△	年の差が大きい（1）	△
	若い（15）	○	—	

「○」はプラス評価、「×」はマイナス評価、「△」は中立評価を表す。

韓國日語教育學報第35號 禁止複製

（表 4）意味類型から見た「妻」と共起する形容詞

意味類型	「妻」と共起する形容詞（用例数）	評価	「妻」と共起する形容詞（用例数）	評価
人柄	おとなしい（2）	○	気風が強い（1）	○
	気が強い（1）	×	だらしない（1）	×
	不甲斐ない（1）	×	―	
力	強い（4）	○	―	
能力	賢い（4）	○	鰹出汁には詳しい	○
	勘がいい（1）	○	きりょうがいい（1）	○
	植物に詳しい	○	鋭い（1）	○
	物分かりがいい（1）	○	愚かしい（1）	×
	仕事に疎い（1）	×	―	
不思議	疑わしい（1）	×	―	
活動力	元気がいい（1）	○	帰りが遅い(1)	×
経済力	お金が欲しい（1）	△	―	
	経済力がない（1）	×	収入が少ない（1）	×
好悪	嫉妬深い（1）	×	妬ましい（1）	×
意志	執着が深い（1）	×	浮気っぽい（1）	×
	誠がない（1）	×	自信がない（2）	×
良	いい（14）	○	よい（18）	○
不良	悪い（1）	×	―	
言語活動	煩い（3）	×	口やかましい（1）	×
	言葉数が多い（1）	×	―	
待遇	冷たい（2）	×	ひどい（1）	×
適不適	ふさわしい（1）	○	ふさわしくない（1）	×
悲哀	悲しい（4）	×	―	
愛	愛情深い（2）	○	愛らしい（1）	○
	愛しい（7）	○	可愛い（5）	○
	恋しい（1）	○	情愛深い（1）	○
	優しい（8）	○	―	
不快	気分が悪い（1）	×	―	
新	旧い（1）	×	新しい（19）	○
健康	お肌が弱い（1）	×	寝息が荒い（1）	×
美	美しい（24）	○	―	
年齢	幼い（4）	△	若い（76）	○
身の上	育ちが良い（1）	○	―	

「○」はプラス評価、「×」はマイナス評価、「△」は中立評価を表す。

台湾日語教育學報第3號 禁止複製

意味類型別で見た場合、「人柄」を表す類型において、夫を修飾する形容詞が多く観察されたが、プラス評価の「頼もしい」と中立的評価の「罪がない」を除いて、その多くは「おめでたい、取り柄がない、思いやりがない、ダサい」のようなマイナス評価の語である。妻を修飾する形容詞は数が少ない。マイナス評価の形容詞（「気が強い、だらしない、不甲斐ない」）がプラス評価の形容詞

（「温和しい」「気風ガ強い」）よりやや多い。「力」類型では「夫」には「すごい、逞しい」、「妻」には「強い」が付いている。但し、日本語世界では「強い妻」は本当にプラス評価かどうか、疑問に思われるだろう。

「才能」類型では、「夫」は「恥ずかしくない」を除いて、「能がない、支払いの能力がない、惚い」のようなマイナス評価の形容詞で描写されているが、「妻」はマイナス評価の「愚かしい、（彼の）仕事に疎い」という形容詞も見られ、「賢い、勘がいい、容貌がいい、～に詳しい、鋭い、物分かりがいい」のようなプラス評価の形容詞も見られる。「夫」には「疑い深い、嫉妬深い」のようなマイナス評価の形容詞が付いているが、「妻」にも「疑わしい、嫉妬深い、妬ましい」が用いられている。なお、夫が妹にやさしいことを「妹に甘い」と見ている例もあった。

「労働」類型では、10 例のうち 9 例は「夫」に関する例で、「忙しい、定年が近い、安らぎが欲しい」のような中立寄りの修飾語もあるが、多くは「帰りが遅い、勤務成績が悪い、仕事がない、長期出張が多い、再起の望みが薄い」のようなマイナス評価である。「経済力」類型では、「夫」の場合はお金を多く妻に提供する意味の「おいしい夫」だけで、「妻」の場合はプラス評価の「元気がいい」も中立評価の「お金が欲しい」もマイナス評価の「経済力が少ない、収入が少ない」も観察された。忍耐力については、「夫」には「我慢強い」というプラス評価の形容詞で書かれているが、「妻」には「執着が深い、浮気っぽい、誠がない、自信がない」のように批判されたことが多い。

「愛憎」類型では、「情けが薄い夫」がいるが、「珍しい夫」「申し分がない夫」もいるので、「愛しい、恋しい、優しい」夫が少なくない。勿論、「愛情深い、愛らしい、愛しい、可愛い、恋しい、情愛深い、優しい」妻もいる。言語活動においては、「夫」は「語気荒い、口うるさい、言葉が少ない」、「妻」には「煩い、口やかましい、言葉数が多い」と修飾されている。夫にいろいろ相談事したい妻では

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

あるが、それに応じてくれない夫の姿が想像されよう。それで、「心を見せない、子供との係わりが少ない、つれない」夫と見なされるだろう。心の触れ合いが足りないため、「ひどい夫」、「ひどい妻、冷たい妻」「ふさわしくない妻」になるのではないかと思われる。夫婦のやり取りが順調でないと、「寂しい夫」も「悲しい妻、気分が悪い妻」も出てくる。そうすると、「新しい夫」、「新しい妻」が登場するが、前者は 11 例、後者は 19 例ある。

「健康」や「容貌」については、「妻」には「寝息が荒い、お肌が弱い、美しい」、「夫」には「足が悪い、意識がない、心臓が悪い、髪が太い、髪が多い、毛がない」のような形容詞例が観察される。なお、「美しい妻」の例は 24 も見られた。「年齢」においては「古希近い夫」が 1 例、「年の差は大きい夫」が 1 例あるが、「若い夫」は 18 例ある。一方、「幼い妻」が 4 例、「若い妻」が 76 例もある。

「良不良」類型においては「夫」には「悪い」例は 2、「いい、品がいい、良い」例は 13 あるが、「妻」には、「悪い」例は 1、「いい、良い」例は 32 ある。

全体的に言えば、延べ語数から見る「形容詞（い）+夫」における形容詞は健康、容貌、年齢に関する語は 29 例、好悪、良不良に関する語は 26 例、労働、経済力に関する語は 17 例、感情に関する語は 15 例、人柄に関する語も 15 例、力、才能に関する語は 12 例、新旧に関する語は 11 例、言語、待遇に関する語は 9 例ある。それに対して「形容詞（い）+妻」における形容詞は健康、容貌、年齢に関する語は 107 例、好悪、良不良に関する語は 42 例、感情に関する語は 30 例、新旧に関する語は 20 例、力、才能に関する語は 17 例、言語、待遇に関する語は 10 例、人柄に関する語は 6 例、労働、経済力に関する語は 5 例ある。異なり語数では、「夫」の上位五位は「若い（18）、新しい（11）、優しい（9）、いい（7）、忙しい（7）、すごい（7）」、「妻」の上位五位は「若い（76）、美しい（24）、新しい（19）、よい（18）、いい（14）」である。このように、「夫」も「妻」も年齢が重視されるが、それとは別に、「夫」は労働、仕事関係の形

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

容詞、「妻」は美貌、新、良関係の形容詞がよく用いられる。

「夫」と「妻」に付く形容詞を整理すると、次のようになる。

（表 5）「夫」と「妻」に付く形容詞の類型

	形容詞の意味類型
共通	人柄、力、不思議、経済力、好悪、良、不良、言語活動、待遇、悲哀、愛、新、健康、年齢
夫だけ	才能、労働、対人態度、忍耐、係わり、特徴、憎、毛髪
妻だけ	能力、活動力、意志、不快、美、身の上

3.2.2 評価性

評価性で見た場合、日本語の形容詞（い）から見た「夫」に対するプラス評価は 15 例（延べ 56 例）、中立的評価は 14 例（延べ 41 例）、マイナス評価は 21 例（延べ 38 例）あり、「妻」に対するプラス評価は 24 例（延べ 103 例）、中立的評価は 4 例（延べ 100 例）、マイナス評価は 26 例（延べ 34 例）ある。「夫」の場合でも「妻」の場合でも、異なり語数においてマイナス評価の形容詞が多く用いられ、延べ語数においてはプラス評価の形容詞が多く用いられた。但し、どれも半数には達していない。

（表 6）評価性から見る「夫」「妻」を修飾する形容詞

	プラス評価		中立的評価		マイナス評価		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
夫	15（30%）	56 **（41%）**	14（28%）	41（30%）	21 **（42%）**	38（28%）	50（100%）	135（100%）
妻	24（44%）	103 **（43%）**	4（7%）	100（42%）	26 **（48%）**	34（14%）	54（100%）	237（100%）
合計	39（38%）	159 **（43%）**	18（17%）	141（38%）	47 **（45%）**	72（19%）	104（100%）	372（100%）

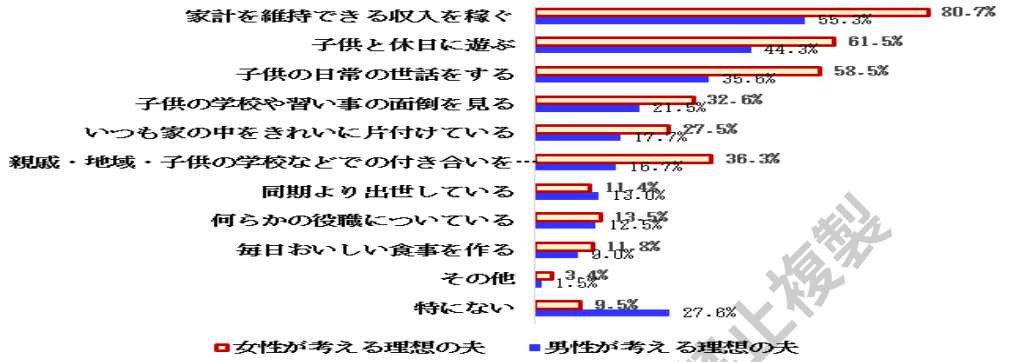
3.2.3 理想の夫像·妻像

「夫」「妻」と共起する形容詞は日本人の理想の夫像と理想の妻像に関係する。キャンキャン 2017 年の調査結果によると、女性でも男性でも、理想の夫は家計を維持できる収入を稼ぐのが第一義務だと思われる。その次は子供と休日に遊ぶこと、子供の日常の世話をすることである。一方、理想の妻については、女性も男性もおいしい食事を作ること、いつもうちの中をきれいに片づけること、子供の

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

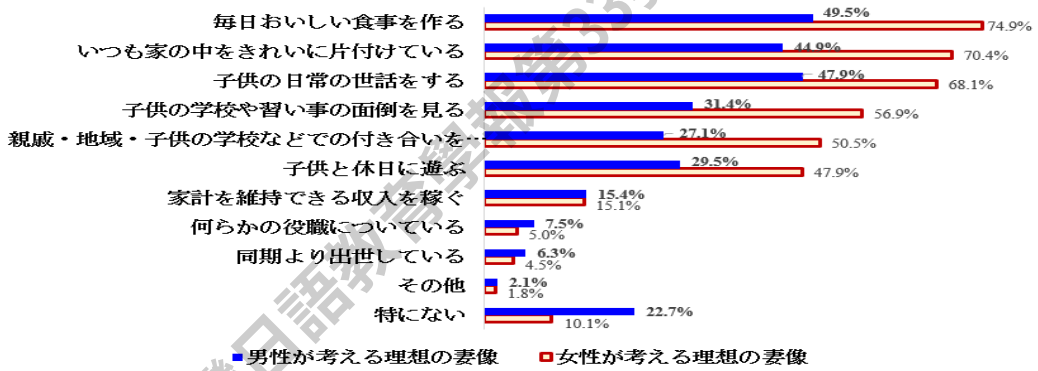
日常の世話をすることが大切だと思われているが、男性と女性とで二位と三位の順番が逆になっている。家庭における夫と妻の役割分担では共働きの理想像が描かれたが、子持ちの妻の就業状況でわかるように、それはただの理想図である(図 2-4 を参照されたい)。

（図 2）日本人の理想の夫像



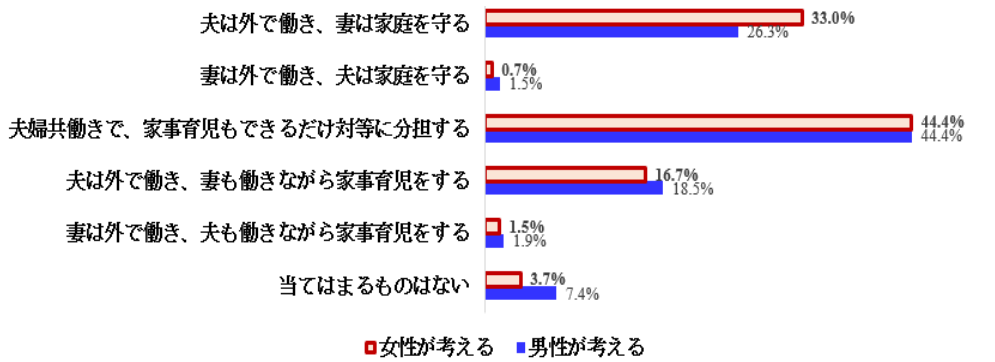
（キャンキャン（2017）による）

（図 3）日本人の理想の妻像



（キャンキャン（2017）による）

（図 4）理想の夫・妻の役割分担

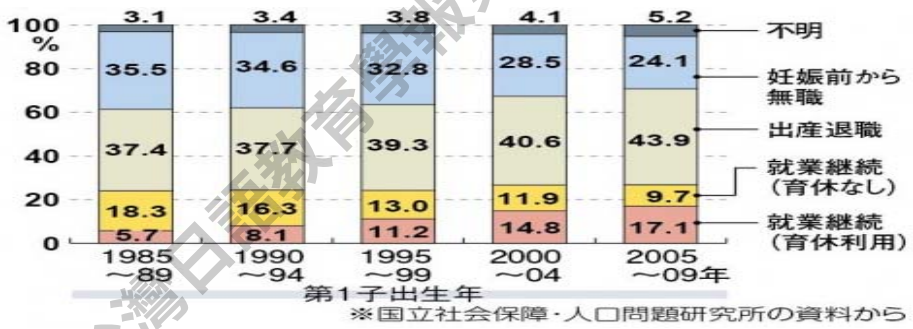


（キャンキャン（2017）による）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

図 2-4 は CanCam.TV2017 年の調査結果である[11]。それによると、理想の夫·妻の役割分担の上位一位は「夫婦共働きで、家事も育児もできるだけ対等に分担する」ことである。確かに、1985 年「男女雇用機会均等法」が成立して以来、日本女性の就職状況は前よりよくなっただろう。しかし、人たちの考え方はそんなに速くは変わらない。それは、CanCam.TV 2017 年の調査結果の二位は「夫は外で働き、妻は家庭を守る」ことでも分かる。特に日本の国立社会保障・人口問題研究所が 2010 年に行った「出生動向基本調査」を見て分かるように、子持ちの妻の就業継続は難しい[12]。このような状況によって「忙しい夫」「長期出張が多い夫」「すごい夫」、そして「仕事に疎い妻」「お金が欲しい妻」「経済力がない妻」「収入が少ない妻」ができ、また「帰りが遅い夫」「言葉が少ない夫」、「口やかましい妻」「自信がない妻」「悲しい妻」になってしまうだろう。

（図 5）第一子出産前後の妻の職業



（河合（2013）による）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

4.おわりに

本研究では「新しい夫」「新しい妻」の用例が多く観察された。新婚夫婦のことを指すこともあろうが、それとは別に、再婚した夫か妻のこともあろう。そうすると、上述した平成年間の熟年離婚のことが考えさせられる。夫は毎朝早く出かけて行き、夜も遅い。取引

[11] キャンキャン（2017）による。https://cancam.jp/archives/457085
[12] 河合（2013）による。https://ironna.jp/article/24

先との接待や、友人と飲み歩いてばかりしている。休日くらい子どもと接してほしいのに、勝手にテニスやゴルフに出かけてしまう。自分の子どもが可愛くないのかと、疑ってしまう日本人妻がいる[13]。また、「定年が近い夫に「定年になったら家事を分担しましょう」と言ってみた。夫は明らかにきつい口調で「そんな仕事をやるつもりはない」、その言い方に「そんなつまらないこと」という意識が感じられた。30年近い結婚生活で夫の物の見方、考え方は分かっているつもりだが、それでも何かがガクガク崩れた。」と嘆いてい妻もいる[14]。毎日新聞（2003）によると、「生まれ変わっても、また一緒になろうね」と思っている男性は68.2%いるが、女性は50.4%だけである[15]。それは日本女性の理想の夫像と日本男性の理想の妻像に関係すると思われる。妻としては夫の定年を境目に家事や家庭から解放されたいので、それには夫の協力が欲しい。一方、やっと定年になって普段できないことをしてみたいのに、妻にがみがみいろいろ言われるのがやりきれない。それで熟年離婚に走ったのではないだろうか。

「夫は外、妻は内」というステレオタイプの思考様式と実情によって、上述した「形容詞+夫」「形容詞+妻」の類型ができた。しかし、いわゆる「優しい夫」、「いい夫」、「いい妻」の内実は何か、時代によって夫像、妻像の推移が見られるのか、もっと考える必要があるが、今後の課題にしたい。

台灣日語教育學報第35號 禁止複製

[13] 広木（2003）。BCCWJ 中納言検索結果による。

[14] 前掲「形容詞+妻」例（42）による。

[15] 毎日新聞（2003）による。付録例（52）を参照。なお、夫婦の心理について詳しくは加藤（2017）、黒川（2010、2018）を参照されたい。

（付録 1)「形容詞（い）+夫」の例

(1)いちばん近くにいる男女は夫婦のようだ。足のわるい夫を妻がいたわっていた。（BCCWJ）

(2)だが、桃子は宮崎に救われたと感じ、新しい夫を愛し、今でもその思いは変っていなかった。(100)

(3)彼女の場合、あそこで買い物をするのが至福らしい。妹に甘い夫さんが「メシ食わせてやるか」と平日なのに外食することになり（ラッキー☆）義妹のリクエストはハンバーグ。近場の数件から選択し「びっくりドンキー」になる。（BCCWJ）

(4)土岐のうしろにひっそりと坐っている元子も、彼女自身にくってかかっているのとおなじな語気荒い夫の言葉が、まるで耳にはいっていないかのような、無関心ともいえそうな表情で、何の反応も示さないのである（100 絶版）。

(5)「（前略）だからあなただって男の意識を抑えていい父、いい夫になれる筈です」（BCCWJ）

(6)（前略）尋ね探し求めて登って行くと、諸侯とも見える品の良い夫が、品のある、身ごもった女に仕えながら二人で居て（後略）（BCCWJ）

(7)赤色灯を回しながら、妊婦を気遣いゆっくりと進む。目の前には、意識のない夫が横たわっていた。（毎日 2003）

(8)「（前略）梨園の妻は、舞台で忙しい夫に代わり、門弟や後援会、贔屓筋を取り仕切るなど、裏方仕事が多くあり、梨園の慣習を知らない女性には難しいからです」(BCCWJ)

(9) 古語でつまというのは配偶者のこと、妻もつまであり夫もつまであるのだから（わたしの愛しい夫以外の男性とオネンネするなんてもってのほかョ）という酷烈な返事だ。（BCCWJ）

(10)「それはおかしい。ほんの三十分ほど前、きみはナイジェルたちにもっとゆっくりしていってくれとほとんど懇願せんばかりだったじゃないか。疑い深い夫なら、怪しいと思うところだぞ」（BCCWJ）

(11) いや、すでに、何の非がなくとも、神経質で口うるさい夫を少しずつ崩壊させる布石を打っているのではないか。（BCCWJ）

(12) 妻にしてみれば、クリスマスにヨットやダイヤの指輪など、合計 6 億円分もプレゼントしてくれるおいしい夫を、またもや「手放せんワ！」（BCCWJ）

(13) 夕方は子どもの宿題や勉強の面倒も任されるわけで、子どもの学習内容を一通り勉強しなくてはならない。また、帰りの遅い夫の帰宅を待つのも主婦の仕事である。（BCCWJ）

(14) 普通の生活を望んでいる。ついには、離婚まで考えるのだが、おめでたい夫は、冗談だと思ってとりあおうとはしない。

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

（BCCWJ）
(15)切れた私が悪いけど思いやりのおもない夫にこれ以上、夫に何を言っても無駄だから取り合えず「ごめん」って謝ったら逆切れした自分を棚に挙げすっごいイヤミ言われた。もう今夜はそれっきりしゃべっていません。（BCCWJ）
(16)（前略）前者のさくは、甲斐性のない夫につくしながら三人の子供を育て、後者の千賀子は、夫と半ば別居暮しをしている。（100 絶版）
(17) 「それじゃ、君の主人とうちのワイフのほうが、合うかもしれないな」　「我慢強い夫と、おもてになる奥様ですか」（BCCWJ）
(18) 同じく　髪が多くて太い夫はすぐに髪が乾きます。（BCCWJ）
(19)戦争に負けた暗い世の中が、気の小さい夫を、こんなに取り乱させたのかも知れないのだと思って、私は夫への不満を我慢しようとした。（BCCWJ）
(20) いま、自分の顔や身体をさするようになり、私は誰？と叫ぶ今日このごろです。毛虫に弱く、毛のない夫にはめっぽう強い女房。夫に強く、ごきぶりに弱い女房。（BCCWJ）
(21)ある夜、恋しい夫である容太郎からお信の相手が実に彼自身であることを打ち明けられて、「仲よくしてくれ、な、お里。」と云はれたときのお里の世界が火焔を噴いて燃え上つたやうな感じ（後略）（100 絶版）
(22)古希近い夫　だんだん姑（はは）に似る（毎日 2003）
(23) それでも、今の夫を見ていると、家族にとっては貴重な３年間だったけど、夫にとってはどうだったんだろうか、と１人自分の中に入り込んで心を見せない夫を見て考えてしまう。（BCCWJ）
(24) 軍では沈黙将軍というあだ名だったという言葉の少ない夫との絆は歌だったのかもしれない。（BCCWJ）
(25) ふだんあまり話を聞いてくれない、子どもとの係わりも少ない夫なのに、自分の都合で口を挟んでくることに腹が立ち、思わず「ふだん、何もしてくれないのに、なぜこんなときだけ口を挟むの。黙ってて！」と言ってしまい、ますます夫・父親との係わりが薄くなってしまう。（BCCWJ）
(26) 自分が悩んでいることをあげてみた。―酒癖の悪い夫が、飲んで荒れなくなるように。（BCCWJ）
(27) 流行の本や映画には寂しい夫や妻を題材としたものが目につく。（BCCWJ）
(28)日ごと夜ごと労務係に痛めつけられた坑夫の妻の実感であろう。勤務成績の悪い夫を持った妻ほどそうである。（BCCWJ）
(29) 土、日は仕事のない夫が、仕事がある私を駅まで迎えに来る習慣で、この日は激しい雨が煙のように跳ね返って「お母さん、足がぬれちゃう

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

よ」と振り向く。(毎日 2003)

(30) そのようにしてようやく得られた全体像は、実体とはほど遠いものであろう、だがそんなものでも嫉妬深い夫は、ないよりはあったほうがよいのだろう。(BCCWJ)

(31) 長期出張が多い夫不在の家庭で、子供の不登校などの問題を抱えながら孤独な子育てに奮闘する。(BCCWJ)

(32)世の常の夫婦なみではなく、情のうすい夫にみえたが、今にして思えば、こんなに薄命な人だったからかもしれないと、宮は淋しく思われた。(100)

(33) 心臓の悪い夫と、半殺しのねずみと、どっちがどこまで頑張るか、これはおもしろい見ものだわ。(BCCWJ)

(34)「妊娠中の私を心からいたわり、あらゆる手助けをしてくれた！」と妻から絶賛される「すごい夫」、川口幸宏氏とパパ大好きさんのパパ氏。(BCCWJ)

(35)平凡と言えば、平凡な家庭ですが、見た目、性格そんなに良くない夫を持ち、妻は喜んでいるでしょうか？(BCCWJ)

(36) センスない夫が妻にした私(毎日 2003)

(37) ふたりとも、スポーツ選手のようにみごとなからだであった。それが、おくれてならじと思ったのか、洗濯屋の地震みたいに盛大に衣服を放りはじめた。ところが、数分後、たくましい夫は棒のように立ちあがって、あたまをかかえてしまったのだ。(BCCWJ)

(38)働くこと以外に取りえのない夫と、若い妻。趣味を持たないダサい夫に「こんなはずでは……」と落胆するエマは、華やかな世界にあこがれ、欲望のままに流される。恋、不倫、失意。買い物依存症となったエマが、本当に手に入れたかったものは――。
(毎日 2003)

(39) 四十歳の夫ほどたのもしい夫を、どこに求めようか。(100)

(40)まったく何の罪もない夫や子供が犠牲になる。(BCCWJ)

(41)宮は一條邸にとどまられて、柏木を恋しく心細く泣きくらしていられた。つれない夫よと思われたときもあったが、別れる間際の柏木の声も眼の色も、嘘はなかったと、宮には感じられたからだった。(100)

(42)定年が近い夫に「定年になったら家事を分担しましょう」と言ってみた。夫は明らかにきつい口調で「そんな仕事をやるつもりはない」。その言い方に「そんなつまらないこと」という意識が感じられた。30 年近い結婚生活で夫の物の見方、考え方は分かっているつもりだが、それでも何かがガクガク崩れた。(毎日 2003)

(43)彼女のいちばんの悲劇は、二十代にして、明治生まれの人を介護したことでしょう。年の差が大きい夫と結婚した上に、さらにその夫の親が高齢

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

になってからの子であったため、彼女はまさに、祖父母の代の舅・姑を見ることになってしまったのです。（BCCWJ）

(44)働くこと以外に取りえのない夫と、若い妻。趣味を持たないダサい夫に「こんなはずでは……」と落胆するエマは、華やかな世界にあこがれ、欲望のままに流される（毎日 2003）

(45) その時だけ彼は、この能のない夫である塩見の、自分の面子をかまえてではあろうと、妻に対する愛情を感じたような気がした。（100 絶版）

(46)財産分与で借金も肩代わり！？ 支払い能力のない夫に慰謝料を請求するのはムリなので、離婚成立と財産分与の拒否を主張。(BCCWJ)

(47)多少の蓄えがあるとはいえ、身寄りのない土地で、再起の望みの薄い夫と過ごす東北の冬は、ことのほか暗く寂しかった。(BCCWJ)

(48)で、ほかのことではこの上なく惚い夫であったにも拘わらず、その学者としての特権を家庭に於いて保留するためには、可なり専制的であった。（100 絶版）

(49)私は彼女の為に料理を上手くなりたいので、福岡県内でお勧めの料理教室を教えて下さい。九州男児として恥ずかしくない夫になりたいので、福岡県に住んでいる方どうかお願い致します。(BCCWJ)

(50)「あなたにはわからないのよ」わたしは言った。「あれほどひどい夫なんて想像もつかないわよ。ひねくれて利己的で意地が悪くて―」（BCCWJ）

(51)まじめ夫ならまだいいが、まじめでない夫だったら、妻として、母親としての心労は癒される時もなく、慢性化してしまう。(BCCWJ)

(52) しかし源氏は、ただの臣下ではなく、準太上天皇という身分なのであるが、姫宮の身分の方を上にしてへりくだったのだった。それは源氏の、やさしい心づかいである。そのことだけでも違例であるが、御所への入内でもなく、臣下への降嫁でもなく、世に類例のない、、珍しい夫と妻であろう。(100)

(53) 私は婚家を飛び出し、幼い娘と、世間的には申し分ない夫を捨てたということで、長い間、悪女のレッテルを張られて（後略）(BCCWJ)

(54)大きくなった３人の息子さんたちに部屋を譲り、家族が集まる居間の一角に自分の書斎を持つ宮口さん。家庭では家族思いの優しい夫であり父である。(BCCWJ)

(55) 髪のかたちこそ新婚の人のそれに結い変えてはいるが、紛れの無い六左衛門の娘、白いもの花やかに彩色して恥の面を塗り隠し、野心深い夫に倚添い、崖にある坂路をつたって、舟に乗るべきところへ下りて行った。(100)

(56)家庭不在の夫と精神世界に目覚めた妻、安らぎがほしい夫とお金だけ

台灣日語教育學報第32號 禁止複製

がほしい妻（BCCWJ）
(57) そして、その棘をようやく棘と感じないで済むようになった現在は、彼は良い夫でも良い父親でもない。(100)
(58) 大宮がご在世のころに変らず、邸を美事に手入れして、わかい夫と妻が楽しげに住んでいるのを、大臣は感無量で、うれしく見た。(100)
(59) 私は、今、お金（借金）のことで嫁さんを疑っています。嫁さんを疑う私は悪い夫でしょうか？愛しているなら信じろ。信じられないのは愛していない証拠だ。(BCCWJ)

（付録 2)「形容詞（い）+妻」の例

(1)「愛情深い妻の役くらい、私にも演じられるわ」まったくなんの努力もせずにね。（BCCWJ）
(2)そして今や、彼にはあのアメリカの理想のような家族がある―愛らしい妻、二人の子供たち、犬、猫、それにキャンピングカー。（BCCWJ）
(3)私が、新しい妻と共に、同じ横浜で、シナ・ソバを食べるなぞということを、誰が、考えたろう。（100 絶版）
(4)衿子は、いい妻だ。大体、わしは女房運がよかった。（100 絶版）
(5)山代に追いかけろ　トリヤマよ追いかけろ、追いかけろ　わがいとしい妻に追いかければ逢えようぞ。（BCCWJ）
(6)疑いを全部放棄するのは安全なことだろうか？　おれは疑わしい妻を抱いているという不安から抜け出したかったのだ。（100 絶版）
(7)白い膚の美しい妻も、洋風の寝台も、茶の湯や生け花を習う着飾った若い娘たちも、海外遊学を約束されながら大学に通う青年たちも、そういう家のなかにいる。（100 絶版）
(8) うるさい妻や嫉妬深い夫を厄介払いするために、仮面で顔をかくし、四輪馬車に乗って、こっそり女妖術使の家を訪れる男女が跡を絶たなかったというから、この時代の風俗の乱脈ぶりはひどいものである。（BCCWJ）
(9)明るいばかりではない大人の恋を、演技達者な香寿、渚がじっくりと見せる。２人に対比するように、しっと深いグレゴリー（初風緑）と浮気っぽい妻のリーザ（秋園美緒）のクレマン夫妻が描かれて重層構造をなす。（毎日 2003）
(10)安らぎがほしい夫とお金だけがほしい妻。こんなとき不倫が生まれるのもやむを得ないと理解もしますが、本気ならちゃんと離婚してけじめをつけるべきだと思うのです。（BCCWJ）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

(11)口ぶりとは逆に、十九歳の幼い妻にそう言えることが満足そうな、若い夫の姿だった。（BCCWJ）
(12)温和しい妻が、美しい、溌剌たる夫人の突然な訪問を受けて狼狽して居る有様が、あり曚曩と浮んで来た。（100 絶版）
(13)厚顔のわりにお肌が弱い妻。（毎日 2003）
(14)この愚かしい妻の弁舌が今度は急に徹吉の心を刺戟し、またしても大人げない言葉を吐かせた。（100）
(15)或る夜、渚山が大分おそくなって訪ねて来たことがあった。彼はもう妻が帰って来たのかと思った。それにしては、このごろ帰りの遅い妻としては早すぎると思っていると、渚山であった。（100 絶版）
(16)正成は妻の裾にすがっての出世をあえて拒まず、賢い妻がさっさと自分から出ていってくれたことを心に感謝し、後妻もきちん
ともらっている。（BCCWJ）
(17) 鹿児島では本枯れ節をよく家庭で使っていたせいで、鰹出汁には詳しい妻も、ここの「もり汁」～　かなり気に入ったとのこと。（BCCWJ）
(18)「うちの人を返せ！人殺し！」と狂ったように叫ぶ悲しい妻の姿もあった。（BCCWJ）
(19) 労わりの気持ちを持った優しい旦那様だと思って、素直に受け入れた方が可愛い妻でいられますよ。（BCCWJ）
(20)私はときおり、自分の勘の当たることに内心驚いたり得意になったりすることがあるのですが、この勘のいい妻が、どうして、あなたの一年間もつづいていた不貞に気づかなかったのでしょう。（100）
(21)ひょっとしたらシッダールタ太子は、気の強い妻から逃れようとして出家されたのかもしれない。（BCCWJ）
(22)もちろん自主独立の気風の強い妻は、モーターサイクルの運転などお手のものであった。（BCCWJ）
(23)夫は私の冷たい反応に諦めたように、歯を磨くため洗面所に入っていった。その後ろ姿を見ると、さっきまでの悔しい気持ちが薄れ、代わって申し訳なさで胸が一杯になった。食欲もなく気分の悪い妻を元気づけようとした彼の誠意を無視したからだ。（BCCWJ）
(24)容貌のわるい妻を持つぐらゐ我慢もなる筈、水呑みの小作が子として一足飛《そくとび》のお大尽なればと（100）
(25)「そなたの言うとおりだ。バーバラは私といるのを喜んでいる。口やかましい妻よりはるかに好ましい連れとなるだろう」（BCCWJ）
(26)今のフェミニズムにしても、経済力の無い妻の全生涯を背負いながら汗水垂らして働いている男性を納得させるだけの、有効的な主張や行動方針が少々足りないような気もする。（BCCWJ）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

(27)しかし彼自身にも当分は解釈出来なかったような或る奇妙な鬱憂があった。それは夜更けになってこうして帰って来た後の元気のいい妻に対する時や、また朝々、彼の女がこっそりと身支度をしてなるべく夫の目を覚さないように心がけながらいそいそと出かけて行くのを、その少しのもの音にも目を覚す彼が寝呆けた目でぼんやりと見る時や、或はまた不眠な夜毎にその傍で心地よさそうにぐっすりと寝入っている妻を見る時などに、屡々ふとその気分に襲われるのであった。（100 絶版）

(28)道端のいちしの花が目立つように、私の恋しい妻のことをみんなに知られてしまいました。（BCCWJ）

(29) そうしてどちらかと言えばやはり苦い気むずかしい表情をして、このよくはしゃぐ言葉数の多い妻を興味もなさそうに聞き流すことが多かった。

(30)仕事の話をしない理由はたった一つ、彼の仕事に疎い妻を退屈させたくないという願いなのである。（BCCWJ）

(31)自信のない妻というものは良人のほんの身振にも、その幸不幸がかかっているのかしら、なさけないことだ。（100 絶版）

(32)出会った女に箱を託され、見るなのタブーを課されるが、嫉妬深い妻に見られ、主人公は日ならずして死んでしまう。（BCCWJ）

(33)世のつねの人は、死にのぞむ人の愛着、執着のふかい妻一族を、臨終のまぎわに近づけまい、見せまいとして引きはなすならわしがある。（BCCWJ）

(34) 第３号被保険者には専業主婦や収入のすくない妻が多く、遺族年金の主旨である一家の働き手が亡くなった場合には当たらない（BCCWJ）

(35) またロッテは母の遺言により、弟妹たちには母の役を、父に対しても情愛深い妻のような役割を引き受けていて、父に対して、また結婚後は夫に対して、従順に服している。（BCCWJ）

(36) 植物に詳しい妻に聞くと多分ハンノキだと思うと教えてくれました。（BCCWJ）

(37)この女と事を起せば、いま二人の間に立ちはだかるように感じられるたみ子の、抜け目ない商売人のカンをくらまして行かねばならず、またあの病的に鋭い妻の保子にもし分れば、保子の妻としての地位を脅かし得る女として、たみ子とのことが分った場合と違ったもっと面倒なことが起るかも知れなかった。（100 絶版）

(38)それを授けてもらえないとは、よほど誠のない妻なんだなあ（BCCWJ）

(39)道長にしても、育ちのよい妻によけいな不安を与えるつもりはなかった。（BCCWJ）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

(40)「汚れが目立ったら洗ってたもんね、私の場合。ところが男のほうは…ベッドシーツとパジャマは、毎日とり替えるもんだと思っていたらどうしよう。なんてだらしない妻だと思われるかしらん」（BCCWJ）

(41)「夫が亡くなった時に泣けなかったら、冷たい妻だと言われたが、そんなことではなかったのに」（毎日 2003）

(42) 僕は戻って働かなければならない。いくら強い妻だって倒れて死んじゃうよ。（BCCWJ）

(43) 鼻息も寝息も荒い妻と寝る（毎日 2003）

(44)一日の職業によって疲れて、それ故に深く眠ることの出来る嫉ましい妻の傍にあって生きてもいなければ死んでもいない又目を覚してもいなければ眠ってもいない彼、例えば「重量と容積とのある影」そのもののような彼は、とりとめのない考えで鈍い自己反省をするのであった。（100 絶版）

(45)ひどい夫よりもっとひどい妻がいることは、最近の日本でも証明されている。（BCCWJ）

(46)ああ、あの鞠子さんならば、こんな愚かな母にはなるまい、こんな腑甲斐ない妻にはなるまい――この反省は、電撃のように私の胸を打って、飛び上るほどはじたが、また、いじらしいお前の忠告として胸にこたえた。（100 絶版）

(47)パリに彼とともに来たのは若い憧憬や虚栄心からでもあるが、それにもまして、宮村にふさわしい妻となるためにはどこへも彼に従って苦労をともにしたいとけなげな覚悟があったからである。（100 絶版）

(48)（前略）じっと彼の顔を見てから、ちらっと私と見較べたりする。その私ときたら唖のようにだまっていなければならないが、さも良人にふさわしくない妻のように観察されているような引け目を感じた。（100 絶版）

(49) ふるい妻を捨て新しい妻を持つ若侍の心理（BCCWJ）

(50) 「でもさ、千恵、こんなに物分かりのいい妻って、なんか変だと思わない？」（BCCWJ）

(51) 血腥い青年の最期も出来るならば話すまいとした。それは優しい妻の胸には余りに、鋭すぎる事実だつたから。（100 絶版）

(52) 「生まれ変わっても、また一緒になろうね」と思っている男性は 68.2%いるが、女性は 50.4%だけ――。博報堂が実施した 50 歳代の男女対象のアンケートで、女性の方が夫婦関係を冷静に評価しているという結果が出た。夫が「良い妻」と思うほどは、妻は「良い夫」と見ていない実態が浮き彫りになった。(毎日 2003)

(53) 男女平等が名実共に実行に移されて半世紀以上たつというのに、それも私などよりずっと若い妻たちから寄せられているではないですか。(毎

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

日 2003）
(54)「良い妻悪い妻普通の妻」（おーみーごーとー）（BCCWJ）

引用出典

『新潮文庫の 100 冊　CD-ROM』（1995）新潮社（100）
『新潮文庫の絶版 100 冊　CD-ROM』（2000）新潮社（100 絶版）
『CD-毎日新聞 2003 データ集』（2004）毎日新聞社（毎日 2003）
現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）中納言 2.4（BCCWJ）
https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search
土曜ドラマ館（西鉄提供ラジオ番組）1997―2005 年分シナリオ
http://www.nishitetsu.co.jp/nnr/inf/drama/による。
（西鉄）（2010 年 6 月 10 日最終閲覧）

参考文献

井出祥子（1979）『女のことば、男のことば』東京：日本経済通信
宇佐美まゆみ（2005）「ジェンダーとポライトネス―女性は男性よりポライトなのか？」『日本語とジェンダー』1-12 頁、東京：ひつじ書房
加藤諦三（2017）『「うまくいく夫婦、だめになる夫婦」の心理』ＰＨＰ研究所
川上未映子（2017）「わたしは「主人」アレルギー。「嫁」も気が滅入る。言葉をもっと大切に！」コラム『川上未映子のびんづめ日記』2　日経 DUAL2017.01.20　https:// dual.nikkei.co.jp/article/098/15/による。（2019 年 7 月 26 日閲覧）
草川昇（2003）『語源辞典』東京：東京堂
黒川伊保子（2010）『夫婦脳』新潮社
黒川伊保子（2018）『妻のトリセツ』講談社
厚生労働省（2017）「平成 28 年人口動態統計月報年計(概数)」
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai16/による。（2019 年 6 月 30 日閲覧）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

ことばと女を考える会（1985）『国語辞典のなかの女性差別』東京：三一書房
佐々木瑞枝（2000）『女と男の日本語辞典』上巻、東京：東京堂
佐々木瑞枝（2003）『女と男の日本語辞典』下巻、東京：東京堂
中丸謙一朗（2018）「『タンスにゴン』ＣＭで誕生　愛情あふれる揶揄「亭主元気で留守がいい」『zakza by 夕刊　フジ』https://www.zakzak.co.jp/soc/news/181219/soc1812190001- n1.html
中村桃子（1995）『ことばとフェミニズム』東京：勁草書房
日本語ジェンダー学会編（2006）『日本語ジェンダー』東京：ひつじ書房
広木克行(2003)『21 世紀を生きる君へ』北水
BCCWJ 中納言による(2019 年 10 月 25 日閲覧)
三島あずさ 2017「「主人」や「嫁」という言葉は賞味期限　川上未映子さん」朝日新聞 2017 年 3 月 6 日
https://www.asahi.com/articles/ASK2S7G82K2SUTIL06H.ht（2019 年 7 月 25 日閲覧）
山中靖子（2008）「現代日本語の性差に関する研究 ―文末表現を中心に」『東京女子大学言語文化研究』87-100 頁、東京：東京女子大学、
賴錦雀(2009)「男性描写における日本語形容詞「～い（男)」をめぐって-「～い（女)」との比較も兼ねて」『台灣日本語文學報』25 号、149-170 頁、台北:台灣日本語文學會、
キャンキャン（2017）「ライフスタイル　男女それぞれが思う「理想の夫像・妻像」と「現実」。保守的なのは、意外と女性だった」https://cancam.jp/archives/457085（2019 年 6 月 20 日閲覧）
産経新聞（2013）「日本人の家族観　「伝統的世帯」は変わらず」『産経新聞』 2013 年 11 月 17 日 https://ironna.jp/article/24（2019 年 6 月 20 日閲覧）

台灣日語教育學報第33號 禁止複製

日本人の家族観　「伝統的世帯」は変わらず（2013）『産経新聞』 2013年11月17日 https://ironna.jp/article/24　（2019年5月1日閲覧）
『週刊現代』2013年5月22日「あの世紀の結婚から、6月9日で20年　あの笑顔が再び戻ることを」https://gendai.ismedia.jp/articles/-/35863（2019年7月10日閲覧）
日本経済新聞2018年6月8日「皇太子ご夫妻、結婚25周年　写真で振り返る歩み」https://www.nikkei.com/article/ DGXMZ031487040X 00C18A6000000/による。（2019年6月30日閲覧）
毎日新聞2019年2月4日「「またか」…政治家「出産」巡る発言　麻生氏「産まないほうが問題」https://mainichi.jp/senkyo/articles/20190204/k00/00m/010/254000cによる。（2019年6月30日閲覧）

後記：本論文は行政院科技部研究案「認知言語学から見た日本語形容詞の意味・用法」（從認知語言學看日語形容詞的使用差異。MOST 105-2410-H-031-050-MY3）の成果の一部である。2名の匿名の査読者からいろいろご助言をいただいた。深謝の意を表したい。

台灣日語教育學報第33號 禁止複製